

仙台堤焼研修 (2016. 4.23)

300年を超える伝統をもつ仙台堤焼の研修を20名が参加して行いました。堤焼は京都乾山風の伝統を受け継ぎ、仙台藩主の茶道具からやがて庶民の甕・器が作られていました。最盛期には30軒の窯元が堤町にあり、市街化に伴い泉区上谷刈に移転し針生家1軒が伝統を受け継いでいます。



現当主4代針生乾馬氏が歴史氏を紹介。



熱心に説明を受けるメンバー



大震災で窯の耐熱煉瓦が崩れた。



素焼きされた作品が並ぶ。



作業の工程の説明。



研修を終え、当主ご家族と記念写真。

仙台堤人形・松川ダルマ研修会 (2016. 4.23.)

堤人形は、300年前堤焼が作られた時期に京都の伏見人形をもとに西の伏見人形、東の堤人形として評判でした。東北地方の花巻、米沢、三春の郷土人形は、堤人形から派生して発展したものと考えられています。人形造形の種類も多く、現在でも千個を超えるものが作られていて、これまでの土型約1,700個は仙台市の有形文化財になっています。



現当主佐藤氏が歴史、作品について説明。



大震災にも耐えた登り窯があるが、市街地により焼けない



かつて作られた鬼瓦など歴史的な焼き物がある。



作業場2階は「堤町まちかど博物館」となっている。



博物館内には長い伝統を感じる作品が並んでいる。



研修を終え、佐藤当主と記念写真。